

が1日、同小を訪れ、校舎を見学し、地元住民と意見交換した。（中村啄也）

4年前に廃校になった旧別所小（真庭市別所）の利活用を考えようと、県立大の学生

## 住民が運営 来春プレオープン



関係者（手前右端）の案内で教室を見学する学生ら

# 旧別所小 どう活用

同小は2015年3月に廃校。現在は住民でつくる「別所小学校学区をよくする会」が主体となり、市内の芸術家によるワークショップや作品展示の会場として使う構想を進めている。来年4月にプレオープン、21年春にグラウンドオープンする予定。より良い運営を目指し、市を通じて県立大に協力を求めた。

岩満賢次准教授（41）とデザイン学部1年生3人が参加。15年ほど前に内装がリフォームされた木造2階建ての校舎を見学。来春に体育館の一室に開設する

## 芸術体験や作品展

# 県立大生見学、意見

ミュージアムショップのペンキ塗りを手伝った。住民約20人と地域の将来や課題について意見を交わした。

光岡颯音さん（19）は「学校には児童の集合写真や習字がそのまま残っていて雰囲気があり、写真撮影のワークショップを開いても面白そう」と話していた。学生たちは来春に再び訪れ、活用法の提案や改装の手伝いをする予定。

近藤正男会長（65）は「学生たちの視点を踏まえ、さまざまなアイデアを検討していきたい」と話した。

## 真庭 魅力的な地域に

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。